

鳴門海峡の 渦潮を 世界遺産



鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録を目指して、普遍的価値を証明するための学術調査に加え、国際的な連携や普及啓発活動に取り組んでいます。



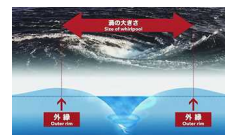
写真・動画撮影及び画像解析、
船からのGPS浮標投入による
流況調査を実施。
渦発生メカニズムを解明。

渦潮の発生のきっかけとなる浅瀬は、北流と南流で異なり、渦潮の発生状況も変わります。北流時は鳴門側にきっかけとなる浅瀬がないため、主に淡路島側のみに渦潮が発生します。それに対し、南流時には鳴門側、淡路島側の両方に流れが引っ掛かる浅瀬があり、海峡の両側に渦潮が発生。さらにより引っ掛かりやすい浅瀬のある鳴門側により規模が大きく鮮明な渦潮が発生することがわかりました。

登録に向けて
こんな学術調査を
行っています

ヘリコプターから近赤外線レーザー照射を行い、大潮時における渦潮の規模・大きさを実測。渦の大きさを海面が最も高くなった外縁と外縁の間の距離にすると初めて定義し、最大29mの渦潮を観測しました。

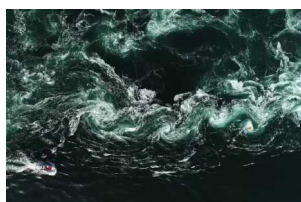
ヘリコプターから
近赤外線レーザー照射を行い、
規模を実測。
最大29mの渦潮を観測。



日本国内の渦潮を調査。
鳴門海峡の多様な
渦の形態が浮き彫りに。



〈渦対〉中央を流れる主流の両側に反対方向の渦を巻き、対となる



〈渦連〉同じ所からいくつも渦が発生し連なって移動していく

鳴門海峡および日本国内の3つの地域（来島海峡、関門海峡および針尾瀬戸）で調査を実施。鳴門海峡では、他の地域で観測されなかった多様な渦の形態・特性が確認されました。



国際的な連携も。ノルウェー関係者の視察の様子。「質の高いものが保全されている」とコメントしていただきました。

「鳴門海峡の渦潮」世界遺産登録推進プロジェクトについて

世界三大潮流のひとつである「鳴門海峡の渦潮」の世界遺産登録を目指して、兵庫県と徳島県の両県で関係行政機関や団体が一体となり、平成26年に「兵庫・徳島『鳴門の渦潮』世界遺産登録推進協議会」を設立しました。

概要

【学術調査の実施】

「鳴門海峡の渦潮」の世界共通資産としての価値について、科学的に立証するため、渦の大きさや発生メカニズム、鳴門海峡の地形・地質について学術調査を行っています。

【海外類似資産調査】

ノルウェーやスコットランド等で発生する渦潮について調査を行い、世界遺産登録に向け海外の渦潮との連携も図っていきます。

【その他】

パンフレット作成やラッピングバスの運行などの普及啓発活動にも取り組んでいます。



世界遺産登録に向けた取り組みを応援する 「ふるさとひょうご寄附金」にご協力ください。

鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録を目指して、価値の独自性等を証明するための学術調査に加え、地元を中心とした機運の醸成、普及啓発などの取り組みを進めています。
この世界遺産登録の取り組みを支援していくため、多くの皆様からのご寄附をお願いいたします。

皆様からいただきました寄附金は、次の事業に活用させていただきます。

- (1) 「鳴門海峡の渦潮」の調査研究に関すること
- (2) 普及啓発及び情報発信に関すること
- (3) その他「鳴門海峡の渦潮」の世界遺産登録推進に必要なこと

お問い合わせ

【ふるさとひょうご寄附金制度について】

兵庫県財務部財政課

TEL:078-362-9061



【「鳴門海峡の渦潮」世界遺産登録推進プロジェクトについて】

兵庫県淡路県民局交流渦潮課

TEL:0799-26-2085 FAX:0799-24-6934

Email: Awajiuzu@pref.hyogo.lg.jp

